

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 24日から25日にかけて、高気圧が千島近海から千島の東へ移動する。
- 24日から26日にかけて、東シナ海の熱帯低気圧が低気圧に変わって日本の東へ進む。
- 26日から27日にかけて、気圧の谷が北日本を通過する。
- 27日から28日にかけて、高気圧がオホーツク海を南へ移動する。

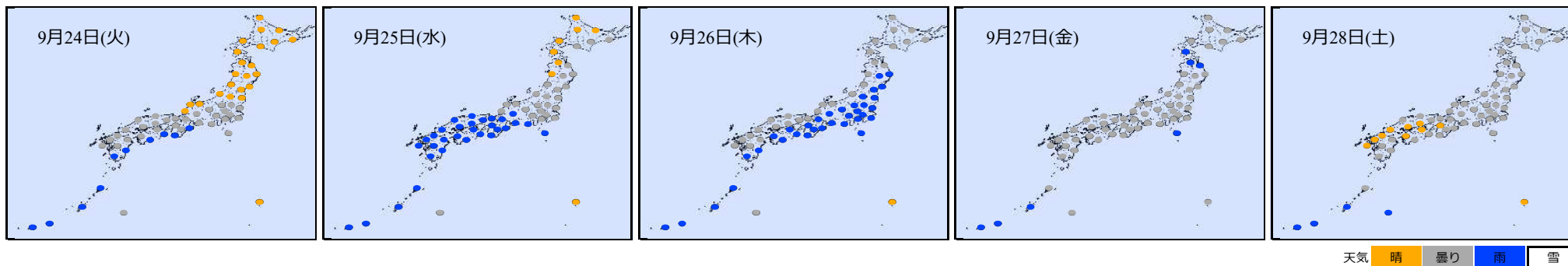
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 25日頃は、西日本では暖かく湿った空気の流れ込みの程度によっては警報級の大雨となるおそれがある。
- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

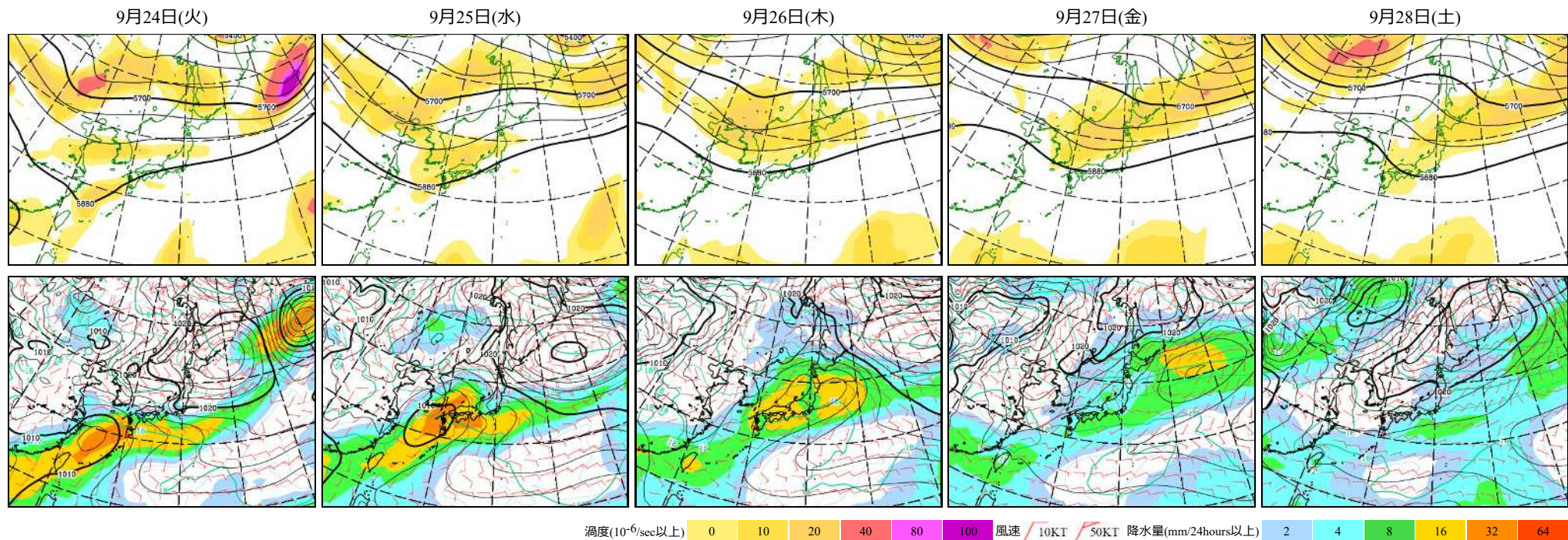
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

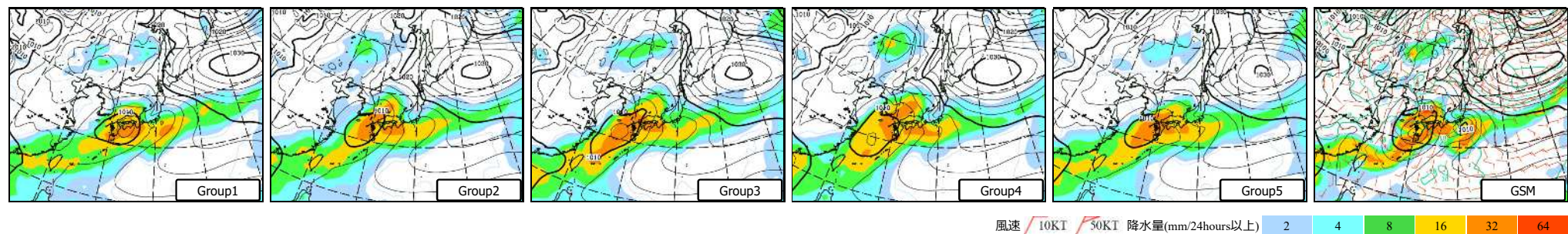


- 北日本では、曇りや晴れの日が多いが26日から27日は雨の降る所がある。
- 東日本、西日本、沖縄・奄美では曇りや雨の日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆9月25日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- この期間は本州付近を通過する低気圧にモデル間のばらつきが大きく、24日から26日にかけては、本州付近を進む低気圧と陸地から離れて日本の南を進む低気圧が見られる。
- スプレッドは比較的小さいが、期間の後半は5700mの特定高度線のばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。